

SIA

しーあ
VOL.129



人と人をむすぶ、
人と世界をむすぶ

Contents

① 特集

子育てと多文化共生

④ SIA NEWS

- ① 県/大津市総合防災訓練で「外国人避難者対応」訓練を実施
- ② 国際教育ワークショップ
地球市民を地域とともに育てよう part 23
「日常に埋め込まれた差別に気づく
～マイクロアグレッションについて～」を開催
- ③ 第8回 国際交流・協力ライブチャンネル
「食」で知るオーストリアを開催
- ◎ ブラジルの姉妹州リオグランデスール州知事が
来県！ 洪水被害支援金を贈呈

⑤ 今、この人にInterview

インターナショナルキダーガーデン勤務
高橋 カーリーさん

⑥ おしえて世界のこと

定番のおもてなし料理は何ですか？

⑦ SIAメンバーズ

特集

子育てと多文化共生

滋賀で暮らす外国人住民は41,475人(2024年12月末現在、滋賀県国際課調べによる)。その中には子育てをしている方も多くいらっしゃいます。

今回は、大津市で「ままとものわ」の活動を通して子育て世代の国際交流の場を創出されている三宅菜依さんへのインタビューをもとに、多文化共生の視点から子育ての現状や交流の場の意義について考えます。

後半では、実際に滋賀で子育てされている外国人住民の皆さんの声をお届けします。

「ままとものわ」がつなぐ多文化共生の輪

「ままとものわ」とは？

「子育てするママの環境は世界共通」

その気づきが「ままとものわ」の活動のきっかけ

「ままとものわ」は、外国にルーツのある家族と日本人家族をつなぐ国際交流の場です。毎回、「食べ物」「お正月」といったトークテーマを決め、子どもたちと一緒に遊んだり、おしゃべりしたりしながら過ごします。

この活動を始めたのは、ご自身も1歳になるお子さんを子育て中の三宅さんです。きっかけはイラン人の友人の妊娠・出産でした。今まで日本人とは見えない壁があったという彼女ですが、「妊娠してから街で日本人が声をかけてくれて親切にしてくれるようになり、地域に属していると思うようになった」という一言が三宅さんを動かします。「子育てを通して話すことができたんだと思いました。「外国の人にどう話しかけたらいいのかわからない、何かとっかかりがないと話せない」。それは日本人も同じです」。そう感じた三宅さんは、外国にルーツのあるママたちと日本人のママたちの交流の場を作ることを決心し、昨年の5月に1回目を実施、以降1～2か月に1回の頻度で開催しています。



▲「最初の活動から参加してくれているモンゴル出身のママが、「菜依のやっていることはいいことだと思うよ」と言ってくれた。なかなか参加者が集まらず、本当に続けていて意味があるのだろうかど落ち込んでいたとき、その言葉が嬉しく励みになった」という三宅さんの「ままとものわ」活動風景。

活動を始めて感じていること 参加者数の安定が一番の悩み

「ままとものわ」は子育て世代の親子の参加をベースにした国際交流の場ですが、現状の参加者の目的意識は外国人と日本人とで違っているようです。外国人は、普段は日本にいる外国の友達と話すことが多いので、ここでは日本語で交流したい、他のママと交流したい、との思いで参加されます。一方で、日本人は、英語で話したい、子どもを外国の文化に触れさせたい、という思いで参加している人が多いようです。

また、日によっては参加者が外国人だけ、日本人だけに偏ることもあります。日本人だけの時は国際交流にはならず、参加者のバランスについては毎回不安と心配が尽きません。さらに、子どもの体調の都合等で開催当日のキャンセルがあることも悩みの1つです。

これからの活動への想い 国籍などに関係なくいろんな人と関わるのが “あたりまえ”という状況を作りたい！

子どもが物心つく前から、国籍に関係なくさまざまな人と出会う環境を作ることが大事、という三宅さんの想いが活動の根底にあります。子どもは、出会った人の国の文化が「面白い！」とスイッチが入ればその国の言語を学ぼうとするだろうし、語学は後からついてくるもの、というのが三宅さんの考えです。

そこには、三宅さんが教師をしていた時に、外国にルーツのある子どもが言葉の壁のためにクラスになじめなかったという状況を目の当たりにした経験があります。「日本の子どもたちもどう関わったらいいのか分からなかったんですね。大切なことは、子どもたちのスイッチを入れるきっかけを作ることなんです」。それは大人も同じです。

「ままとものわ」主宰

三宅 茉依さん

「大学生の時にボランティアとして二度フィリピンに行き、無力感や悔しい思いを経験したことから、国際協力の仕事をしたいと思うようになりました」と三宅さん。

大学卒業後は公立中学校で英語教員を約5年勤めたのち、再び大学院で学び、卒業後は外務省在外公館専門調査員としてカンボジアで勤務。帰国後は夫の仕事の関係で滋賀県に転居し、大学の国際課で2年勤めるが、国際協力や多文化共生の仕事を求めて神戸市のNGOに転職。滋賀県でも何かできないかと思い、大津市の多文化共生ボランティアに参加し、昨年5月に「ままとものわ」を立ち上げて現在に至る。



「活動中は、自分の子どもでなくても、側にいる子どもをだっこしたりあやしたり、子どもも大人もわちゃわちゃした空間となっています。いろんな人がいるのがあたりまえ、近くにいる人が子どもをみる、というのが理想で、それが多文化共生につながっていく。それにはまず、「ままとものわ」のような国際交流の場できっかけを作ってほしいと思います」と三宅さん。この活動を広めていくためにチラシを作ったり、SNSで発信したりと、日々奮闘されています。

「最近になって「次の活動はいつ？」と聞いてくれる人がいて嬉しいです。国籍や文化に関係なく、外国人も日本人も、悩んでいること・しんどいことは同じ。「ままとものわ」が、ここに来てこの人たちに会ったらほっとできる、そんな場所になってほしいです」。三宅さんの当初の想いは、現在進行形で一歩ずつ着実に形になってきています。

※「ままとものわ」の今後の活動
予定等は右記のSNSで発信中
です。ぜひご覧ください。



「ままとものわ」の活動を見学してきました！



まずは全員で自己紹介。この日はメキシコにルーツのあるご家族が2度目の参加！「外国の方とコミュニケーションを取りたい」と定期的に参加されている方も。そして、その後は子ども達と一緒に遊びやゲームを楽しみます。活動中は常に英語でコミュニケーションを取りながら楽しめるように工夫されており、終始笑顔の絶えない和やかな雰囲気でした。親同士も、「子育て」という共通の話題を通してすぐに打ち解け、子どもの習い事の話で写真を見せあうなど盛り上がっていました。

日常的に様々な国の人と接するという経験が、地域での多文化共生につながることを改めて感じました。

日本における子育てのリアル

当協会が実施した次世代人材育成事業「多文化共生×SDGs×開発教育」連続セミナーの第3回(9月28日(土)実施)では、「日本で子育てする外国人保護者との出会い」をテーマに、セミナーの受講生(高校生～30代)が6か国の保護者の方と交流しました。受講生が、日本での子育てについて外国人住民の方から聞いた話や感想を一部紹介します。



外国人ゲスト出身国:
中国、ブラジル、フランス、マダガスカル、ベトナム、インドネシア

外国人保護者の声

子どもは友だちと馴染むのが早かったが、親は、言葉や心の壁を感じる事が多く大変だった。持ち物や行事のことなど、書面では分からないが、保育園の先生が端的に前日に伝えてくれたり友だちが教えてくれたりしたことがとても嬉しかった。

観光客の方々には日本食は人気だが、国によっては日本食の味付けが口に合わなかったり、学校の給食で毎日牛乳が出ることに疑問を感じたりすることもある。

園や学校での難しい書類や膨大な量の配布物に困っている。園や学校での生活経験から、子どもの方が日本語が流暢になるというのは珍しいことではないようだが、親からすると教えてあげたくても教えてあげられない悩みもある。

子どもの乳幼児健診で、検査で使われる日本語を家庭内で使っていなかったために、子どもが日本語の指示を理解できず、評価でチェックがついてしまった。

子どもが、海外から来たことや宗教の違いによりいじめにあった。

子どもをいつ塾に行かせるべきか、高校入学のシステムがわからない等、主に教育に関する事で悩んでいる。また、日本人と仲良くしたいのに、あまり会話をしようとしてくれずさみしい。



受講生の感想

- ▶ 日本人にとっての遠慮の文化、相手に失礼がないようにという意識が、外国から来た人たちには「避けられている」ように映っていることがよく分かった。
- ▶ どの言語を子どもに教えるかをどの国の親も気にしているところが共通していたのが興味深かった。
- ▶ 皆さんの話を聞いて、日本の環境や学校の仕組みをこうしたい、ああしてほしい、という意見よりも、自分がどう馴染めるか、どう過ごせばいいかという不安や悩みの方が多く挙がっていたのが印象的だった。

三宅さんの活動や外国人保護者の声を通して、多文化共生のための出会いの場づくりの重要性を再認識しました。異なる文化の中での子育てには、言葉の壁や孤立による不安などの課題も多くありますが、交流を通じて人と人がつながり、お互いのことを思いやり、尊重しあいながら、誰もが子育てしやすい社会をめざしたいですね。

2024年度次世代人材育成事業
「多文化共生×SDGs×開発教育」
連続セミナー概要

- 第1回:「参加者同士の新たな出会い」(オリエンテーション、ワークショップ体験等)
- 第2回:「ブラジル人学校の生徒との出会い」(日本ラチーノ学院訪問)
- 第3回:「日本で子育てする外国人保護者との出会い」
- 第4回:「さまざまな宗教との出会い」(宗教関連施設等を巡る神戸スタディツアー)
- 第5回:「日本に根付く朝鮮半島の歴史と今との出会い」(渡来人歴史館・滋賀朝鮮初級学校訪問)
- 第6回:「多文化共生に関する講演および受講生による発表会」

▶ セミナーの詳細は、当協会ウェブサイトに掲載の実績報告をご覧ください。 <https://www.s-i-a.or.jp/references/948>



1. 滋賀県総合防災訓練

日時 2024年10月20日(日) 8:15~11:30 **会場** 彦根港
内容 ①通訳翻訳アプリ「Voice Tra」体験 ②やさしい日本語体験クイズ

2. 大津市総合防災訓練(小野学区)

日時 2024年11月10日(日) 7:45~11:30 **会場** 大津市立小野小学校体育館
内容 ①外国人避難者の受付訓練 ②外国人避難者の相談対応訓練
 ③災害時外国人支援に関する展示

News 1 県/大津市総合防災訓練で「外国人避難者対応」訓練を実施



災害時には「言葉がわからない」ことによって、外国人が避難行動や避難先の生活などで困難に直面します。今回の訓練では、災害時外国人サポーターや県・市の国際交流員の協力のもと、来場者に、通訳アプリを使った避難所での被災外国人への相談対応に挑戦していただきました。アプリを通して会話が広がっていくことで、最初は「外国語?無理無理!」とためらっていた方にも、「これなら自分でも出来るわ」「便利」と感じていただき大変好評でした。

その他、「もしも電気やWi-Fiが使えなかったら?」という場合に備えて、「やさしい日本語」でもコミュニケーションが取れることを、クイズを通して体験していただきました。

今後も多言語ツールを活用し、地域で被災外国人を支える体制づくりを広げていきます。

News 2 国際教育ワークショップ 地球市民を地域とともに育てよう part 23 「日常に埋め込まれた差別に気づく ~マイクロアグレッションについて~」を開催

日時 2025年1月11日(土) 10:00~16:45 **会場** ビアザ淡海(大津市) **参加者** 27名
講師 北川 知子さん(特活)とんだばやし国際交流協会理事長 **共催** JICA関西、Glocal net Shiga

「マイクロアグレッション」とは、言った人の主観的な意図を問わず、敵意、軽蔑、否定、軽視、侮辱等をマイノリティに伝えてしまう差別言動です。今回のセミナーの中で、「ステレオタイプ」は偏見でよくないと思う人も多いが、むしろ、だれもが持っている前提で、それが差別に繋がらないようにするにはどうしたらよいかを考えることや、マイノリティ側に不利益が生じないよう環境・条件を変えることが大事だと説明がありました。

今回紹介されたカードを使ったワークは、マイクロアグレッションになる言葉は言っちゃいけないと教えないのではなく、言った側と言われた側の間にどんな衝突が起こっているのかを考えてもらうことがポイント。どんなに気をつけていても、誰だって差別をしてしまう可能性があることを踏まえ、他人を傷つけないためには知らないことを放置せず、学ぼうという意識を持ち続けることが大事だと伝えられました。



▲「大阪版マイクロアグレッションカード」(©府外教)を使ったグループワーク

<使用教材>
 「ちがいでキドキ多文化共生ナビ1・2」
 (大阪府在日外国人教育研究協議会発行)

※ セミナーの詳細は、当協会ウェブサイトに掲載しています。



<https://www.s-i-a.or.jp/references/946>

News 3 第8回 国際交流・協カライブチャンネル「“食”で知るオーストリア」を開催

日時 2025年3月2日(日) 16:00~17:45 **参加者** 20名
ゲストスピーカー 近藤 愛弓さん(オーストリアの「日本食普及の親善大使」)
後援 滋賀県



オーストリアは、国の形と琵琶湖の形が似ているというSNSの投稿をきっかけに、2021年から滋賀県との交流が始まっています。今回は、そんなオーストリアとオンラインでつなぎ、文化・生活の様子や「食」に関する様々な話題を紹介いただきました。調理器具等を昼間に片付けて台所を汚さないように夕食はあたたかい料理ではなくハムやチーズ等で済ませることが多いことや、甘いスイーツが食事として学校の給食に出てくることなど、日本との食文化や習慣の違いはどれも興味深いものばかりでした。

参加者からは「オーストリアの“今”を、現地の方の生の声を通して知ることができ、楽しめた」「滋賀県との交流の関係が分かった」といった感想が寄せられました。

ブラジルの姉妹州リオグランデスール州知事が来県! 洪水被害支援金を贈呈

2024年11月、リオグランデスール州のエドゥアルド レイテ州知事をはじめとする訪問団の皆さんを滋賀県にお迎えました。

昨春、大規模な水害に見舞われた同州では、現在も復興に向けた取組が進められています。三日月知事とレイテ知事との会談では、治水や防水対策に関する知見の共有などについて意見が交わされるとともに、県民の皆さんからお寄せいただいた洪水被害支援金の贈呈が行われました。レイテ知事からは「金額以上に友情というものがどれだけ素晴らしいか、温かい気持ちも一緒にいただいた、本当に感謝する」というコメントがありました。

琵琶湖を遊覧する「リオグランデ号」の船上で県内在住のブラジル人コミュニティの皆さんとの交流も行われ、2025年の姉妹提携45周年に向けて両県州の友好を深める貴重な機会となりました。



高橋 カーリー さん

外国人も日本人も、いろんな人がいるという環境に慣れ親しむことが、多文化共生につながるんだと思います。



■来日されたきっかけは何だったのでしょうか？

大学では社会福祉を学んでいました。オーストラリアでの就職も考えていましたが、1年間の日本での英会話講師の募集があったことから、後悔したくないと思い、日本での仕事を選択し大学卒業と同時に日本に来ました。来日後の仕事場が滋賀県で、当時は京都から通っていました。

■日本に興味を持たれたきっかけは何だったのですか？

小さい時にテレビで日本のドラマやアニメを見たのがきっかけです。6歳の時に一番好きだったドラマが「西遊記」で、アニメでは「鉄腕アトム」や「ジャングル大帝」をよく見ていて、こうした日本のカルチャーに興味を持っていました。その後、ハイスクールではたまたま第2言語の先生が日本語の先生になったことで、日本語にも興味を持つようになりました。

■実際に来日されどんな印象を持ちましたか？

日本のイメージは忍者や芸者といったものですが、来日してみると先進的などところも多く、また神社仏閣など古い伝統を守るところもあり、面白い国だと思いました。困ったのはやはり言葉です。自身の日本語能力のこともあり、日本人との付き合いは英語が話せる仕事関係の人がほとんどでしたが、みんな明るく優しいですね。コミュニケーションという意味では、オーストラリアでは街で通りかかった知らない人にも「服かわいいね！」などと声をかけますが、日本人は初対面の人には声をかけないのだと、そのあたりはオーストラリアと違ってとまどいました。

■日本で暮らしていく上で不安もあったかと思いますが、結婚されて今は滋賀にお住まいですが、生活面のアドバイスは周囲からありましたか？

1年間の英会話講師の仕事を経て、京都での初めての海外生活が楽しく、日本での滞在をもう1年延長することに決めました。この滞在中に夫と出会い、夫の仕事の関係で野洲で暮らすことになりました。その後は子どもも生まれ、英会話

講師のパートを続けながら現在に至ります。子どもを介して同世代の日本人との交流はできましたが、深い友達関係には至りませんでした。ただ、野洲市国際協会での活動を通して、いろんな国の人と出会えたことは励みになりましたね。

■現在は、インターナショナルキンダーガーデンで就学前の子どもに英語を教えておられるということですが、この仕事を通して何か発見などありましたか？

小さい頃から私たちのような外国人を身近に感じてもらい、文法や発音を意識せずに話すことで、英会話を楽しめる環境が大切だと思いました。日本人が英会話を不得意とするのは、話す時に文法や発音に厳しいからだと思います。それは日本の英語教育の問題かもしれません。英語はどこ国でも話しているのに、いろんなアクセントがあります。どのようなアクセントでも恥ずかしながらコミュニケーションをとるようにして、日本のことをもっと外国人に伝えてもらえるといいと思います。今は毎日子どもの成長を近くで見られることもとても楽しいですね。

■ところで、カーリーさんはFacebookで「Mottainai Japan」を運営されていますが、きっかけは何だったのでしょうか？

36歳になった時に、失敗してもOK!というルールで「36の新しいことをする!」という目標を立てました。毎日がルーティン化し、1年が短く感じるようになっていたので、新しいことに挑戦することで、日常に変化を感じたかったんです。

スキューバダイビングをする、千羽鶴を折るなどの新しいチャレンジの中の1つに、Facebook内でいらなくなったものを欲しい人にあげる「Mottainai Japan」の活動の立ち上げがありました。「36」の中でも、このチャレンジは人のために自分ができることなので、一番誇りに思っています。環境にも良いし、たくさん人の助けにもなり、同じようなサイトを作るグルー

▲娘のリリーさん(左)に翻訳を務めていただきました。リリーさんは小・中学校を日本で過ごし、高校はオーストラリアに留学。現在は京都の大学に通われています。

▲「初めて来日した時に驚いたことは、電車に乗る時にみんなが並んで待っていることでした。ギャルのファッションや、プールでホイッスルがなったとたんみんなラジオ体操を始めることにも驚きましたね(笑)滋賀は都会ではないけれど田舎すぎることもなく、京都や大阪に近くて利便性がよく、子どもを育てるのに住みやすいいいところですね」

●プロフィール●

高橋 カーリーさん／

オーストラリア マンジュラ出身 守山市在住

インターナショナルキンダーガーデン 勤務

2001年に来日、京都で暮らしながら滋賀で英会話講師を勤める。その後結婚し野洲に転居。パートナーの転勤のため宮崎県で7年間過ごし、再び滋賀に戻り現在に至る。2024年からインターナショナルキンダーガーデンで勤務し、子どもの英会話教育に携わる。10年前から約39,000人のメンバーが不用品を譲り合うFacebookの「Mottainai Japan」を運営する。



◀カーリーさんが運営するFacebookの「Mottainai Japan」。国内在住であれば外国人も日本人も誰でも参加できる

ブも増えました。こうした影響を与えられたことも嬉しいですね。オンライン上の活動だからこそ、外国人も日本人も、この取組を通じていろんな人に出会うことができました。まさにこれが多文化共生で、今も楽しく続けています。

■最後にカーリーさんの今後の夢や目標を教えてください。

24年前に来日したことを考えると人生の半分を日本で暮らしていることになりました。今、故郷のオーストラリアを見たら印象が違うかもしれません。子どもも大きくなったので、一度故郷に戻って、自分がどんな印象を持つのかを体験したいですね。そこでもっと歴史の深い他の国に行きたいと思うかもしれないし、やはり日本がいいと思うかもしれない。もしどこか他の国に行くことになったら、語学学校に行ってその国の言葉を学びたいです。そこからまたスタートでチャレンジですね。

おしえて?世界のこ

テーマ

定番のおもてなし料理は何ですか?

今回は、家族や友人等が集まる場でよく食べられるおもてなし料理を教えてくださいました。みんなで料理を味わいながら過ごす楽しい食事風景が目に見えそうです。材料や味付けを参考に、ぜひご家庭でも世界のおもてなし料理にチャレンジしてみてください。

■アメリカ

中嶋 景子さん

(滋賀県ミシガン州経済交流駐在員)

大きな耐熱容器に入ったオープン料理がよくお目見えます。取り分けやすく、大勢のおもてなしにピッタリ。最初の料理を食べている間に次の料理をオープンに入れ、会話を楽しんでいる間に出来上がるのも魅力です。余っても温め直して食べやすいというメリットもあるそうです。

他にも、ファンドレイジングイベント(学校で寄付金を集めるために開催されるもの)で購入したケーキが振る舞われることもあり、アメリカらしさを感じます。



■アメリカ

クリストファー ブリッキーさん

(滋賀県国際交流員)

子どもの時、両親が作る定番のおもてなし料理はデビルド・エッグでした。この料理は、まず卵を固ゆでにし、次に卵を半分に分けて、黄身を抜いて、マヨネーズとレリッシュを混ぜて、再び白身の中に詰めます。レリッシュとはパプリカ、キュウリ、タマネギを刻んで、酢に漬けたものです。以前、日本でデビルド・エッグを作った時、私はレリッシュをキムチに置き換えました。初めて家族に作った時は、大好評でした。友達とポットラック(持ち寄り)する時は、いつもこれを作るのが私の定番です。

■フィジー

金沢 正文さん (JICA海外協力隊員)

フィジーのおもてなし料理といえば「ロポ料理」(豚丸々頭を地面に掘った穴の中で蒸し焼きにして、ココナッツミルクをかけていただく素朴かつ豪華な料理)ですが、今回は「ビラ(Bila)」という素朴なお菓子を紹介します。フィジーの主食キャッサバの皮を剥き、みじん切りにして、4日ほど水に浸してから砂糖とココナッツを加えて、バナナの葉にくるんだ後、蒸して出来上がり。これを初めて食べた時、これは「フィジーのちまき」と思いました。食感、味わいともに「ちまき」のようなモチモチ感がやみつきになります。これが1本たったの1~1.5F\$ (約70~100円)、ちょっと安すぎでは?



▲市場で売られているBila

■ブラジル

ジエゴ デ ソウザさん

(滋賀県国際交流員)

ブラジル人のおもてなし料理という最初に頭に浮かぶのはケーキに他なりません。美味しいコーヒーなどを飲んで、焼き立てのケーキを食べたり、笑ったり、世間話をしたりするのはまさにブラジルで人気の習慣です!よく食べられるのは、ニンジン、チョコレート、コーンミールのケーキです。子どものころ、おばあちゃんがよくケーキを作って、近所みんながいつも来て味わっていました。そのおかげで隣の人たちと簡単に仲良くできました。皆さんもブラジル人の家へ行ったら、手作りケーキを食べてください。きっと楽しい時間を過ごせますよ!

■ペリーズ

杉中 綾子さん (JICA海外協力隊員)

多民族からなるこの国では様々な料理を「ペリーズ料理」として楽しめませんが、中でもトルティーヤチップスはパーティーに欠かせません。私のお気に入りには、サルピコンという、細かく切った豚のグリルとトマト、玉ねぎ、パクチーをライムジュースと塩で味付けし、チップスにのせて食べる料理です。豚肉が魚介になるとセビーチェと呼ばれ、他にも刻んだソーセージとソースにからめるチポトレ、チップスにひき肉とチーズソースをかけたナチョスなどがあり、暑い中米ペリーズではどれもビールのお供に人気です。



▲サルピコン

■ペルー

武部 樹理さん (JICA海外協力隊員)

ペルー北部では魚介類が豊富に獲れるため、魚を使用したSudado de pescadoという料理が、私が現地の友人宅を訪れた際によく食べられています。自身魚をトマトベースのスープで煮込んだもので、他にもイカやタコ、エビなど海辺の町ならではの具材が入っています。お好みでレモンを絞ったり、生の唐辛子を少しずつちぎっていれたり、これを2~3人で分けて食べます。基本的に取り皿はなく、大皿から直接スプーンを使って食べます。魚を丸々1匹使用しており魚介のうまみを感じられるので、日本人の口にも合うはずですよ!

■ボリビア

中庭 藍さん (JICA海外協力隊員)



▲マハディート

私の住むボリビア東部では、「マハディート」という普段からお昼に食べられることの多いこの家庭料理が、おもてなし料理としてもよく見かける一品です。リゾット風の

飯にチャルケと呼ばれる干し肉や玉ねぎ、トマトが入っており、その上に目玉焼きとバナナの揚げ物が添えてあるのが特徴です。また、観光地としても有名なウユニなどではリヤマ肉が定番食であり、おもてなし料理としてもよく振る舞われます。リヤマ肉はやや歯ごたえがあるものの、クセもなく牛肉に似たような味わいです。皆さんも機会があれば是非ご賞味ください!

■ルワンダ

少徳 すみれさん

(JICA海外協力隊員)

私が暮らす村では、友達を家に招くときやパーティーをするときなどには必ずと言っていいほどイフィリティと呼ばれるポテトフライが出てきます。じゃがいもの皮をむき、油でじっくりとあげて塩をまぶして食べます。そこにお好みでピリピリと呼ばれる唐辛子をつけることもあります。ルワンダのじゃがいもはとてほくほくで、油で揚げると外がカリカリになりとても美味しいです。じゃがいもや油は少し高く、なかなか食べられないからこそイフィリティはご馳走で、子どもも大人も、もちろん私も大好きな料理です。

■中国

西村 文彦さん

(滋賀県誘客経済促進センター〈湖南省〉所長)

中国でも料理はお客様へのおもてなしにとって大切なものであり、私も友人のご招待を受け、様々なおもてなし料理をいただきましたが、その中でもインパクトが強かったのが「羊の丸焼き」です。羊肉は、中国語で「ヤンロウ」と発音され、主に内モンゴル自治区など北方で食べられている印象がありますが、中国人にとって人気のある食材で、中国全土で食べられています。串焼きやスペアリブ、鍋など、食べ方は様々ですが、「丸焼き」は大勢の人数が集まる賑やかな場が、一層盛り上がりやすいです。特製のスパイスで味付けられ、じっくりと焼かれた羊肉は、外はカリッと中はジューシーで、とても美味しく、頬張りながら会話も更に弾みます。

SIA メンバーズ

Members of Shiga Intercultural Association for Globalization

SIAメンバーズ各店より滋賀県国際協会会員の皆さまに会員相互の交流を目指して
会員特典を提供いたしております。特典利用の際は会員証を提示してください。

お店コーナー

神原税理士事務所

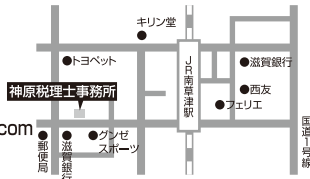
日々の帳簿処理、会計や税金について、できるかぎり、お客様の立場でわかりやすくサポートします。とくに海外勤務や英文経理の経験がある税理士が、日本語が苦手な外国人事業者の確定申告や中小外資法人の会計税務にも対応します。



会員特典 相談料無料(何でも気軽に相談ください)

住所: 草津市南草津2丁目3-9
コミュニティ南草津ビルⅢ3F-B
(南草津駅西口より徒歩5分)
電話: 077-599-3480
(電話受付可)

URL: <http://www.kambara-office.com>
営業時間: 9:00~17:00
定休日: 土・日・祝



Siam Erawan

サームエラワン



「微笑みの国・タイ王国」を紹介するサームエラワンは、シェフのノイさんが作る本物のタイ料理(当店はタイ政府よりタイ・セレクト・シグネチャーの認証を得ています)のご提供や、タイ料理教室(出張可)など各種イベントを開催しています。ランチ・ディナーは夏期のみ営業です。公式ホームページから営業日やイベント内容をご確認いただけますのでご覧ください。(LINE・Facebook・Instagramあります)



会員特典 各種教室料金・飲食代(テイクアウトは除く)5%OFF

住所: 東近江市八日市町11-16
営業時間: ランチ 11:30~ 定休日: 日・月曜日
電話: 0748-22-0422 携帯: 090-1131-9344
URL: <https://www.siamerawan2558.com>



西洋料理 ロジェ・ソバージュ

西洋料理ロジェ・ソバージュからのお便り。今回は、期間限定メニューをお届けいたします。それは、近江牛ステーキコースです。オードブル盛合せ、スープ、近江牛のステーキ(60~70g)、サラダ、デザート、パン、コーヒーまたは紅茶。SIA会員様には、お飲み物をお付けして税込2,200円です。皆様のご来店をお待ちしております。

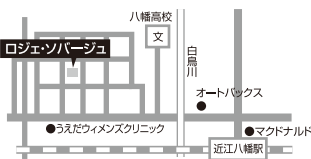


壁面ギャラリーを募集しております(無料)。1か月交替でお願いします。

会員特典 グラスワイン or ソフトドリンク or ノンアルコールビールのいずれか、お一人様一杯サービス

他のサービスとの併用はできません。

住所: 近江八幡市堀上町99-12
電話: 0748-36-8123
営業時間: ランチ 11:00~14:00
ディナー 17:00~21:00
定休日: 不定休



ミシガン州立大学連合日本センター

〈2025 英語プログラム受講生募集〉

[開講期間] 2025年4月1日(火)~2026年3月18日(水)
全40回(各期10回)

[教室] ミシガン州立大学連合日本センター(彦根市松原町1435-86)
近江八幡教室(近江八幡市鷹飼町454-4 Nビル)

[クラス]

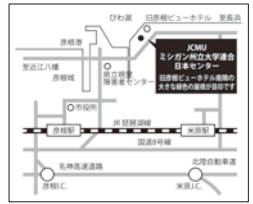
- 一般コース: 初級から上級まで5コース(1クラス60分・高校生以上対象)
- EBC: バイリンガル小中学生クラス

会員特典 受講料5%OFF(ご本人のみ)

※他割引と併用不可
※お申し込み時にSIA会員であることをお申し出ください。

〈こども英語教室2025も募集中〉
2025年4月1日(火)~2026年3月18日(水)

住所: 彦根市松原町1435-86
電話: 0749-26-3400 FAX: 0749-24-9356
URL: <https://www.jcmu.net>
E-mail: sifah@mx.bw.dream.jp



各クラスの
詳細はHPを
ご覧ください

ドイツレストラン ヴュルツブルク German Restaurant WURZBURG



ドイツ春の代名詞! シュパーゲル(ホワイトアスパラガス)をご用意致しております。ディナーメニューとなりますが、事前のご予約でランチタイムもご提供致します。春の味覚をどうぞご賞味ください!

会員特典 現金でのお支払いで会計10%OFF
クレジットカードでのお支払いで会計5%OFF
※その他割引との併用不可

※ご本人含む6名様まで
※会員証のご提示をお願い致します。

住所: 大津市由美浜5番地
電話: 077-526-3500 FAX: 077-526-3539
E-mail: wurzburg@mx.bw.dream.jp
URL: <https://www.wurzburg.jp>
営業時間:
ランチ 11:00~15:30(ラストオーダー 14:30)
ディナー 17:00~21:00(ラストオーダー 20:00)
定休日: 不定休



地球雑貨アース・ヴィレッジ

東南アジアを中心に店主自らが現地へ赴いて仕入れた品々が所狭しと並び民族雑貨店。その土地ならではの自然素材の特徴を活かした手作り雑貨や伝統的な民族楽器など、味わい深い品物を手に取って、地球に息吹く様々な文化や人々の営みを感じてください。



◀ジャンベ・ディジュリドゥーの取り扱い
は国内最大級! 初めての方には演奏方法などレクチャーいたします。

会員特典 SIA会員証提示で全商品5%OFF

住所: 〒521-1311 近江八幡市安土町下豊浦5096-31
TEL: 0748-46-2007
URL: <https://www.gaia-link.com/>
営業時間: 9:00~18:30
定休日: 毎週日曜日

※ホームページ内でも
商品の購入が可能です。



SIAメンバーズ

トラベルコーナー

会員証を提示いただきますと、割引特典がご利用いただけます。
お申込・お問い合わせの際には滋賀県国際協会の会員であることをお申し出ください。

琵琶湖汽船
ミシガンクルーズ

びわ湖の南湖を周遊する、赤いパドルが目印の外輪船。湖国大津の玄関口・大津港の他、事前予約制でのお浜観光港や柳が崎湖畔公園港にも寄港するので、三井寺や石山寺、比叡山などの観光と組み合わせるとお手軽にびわ湖遊覧を楽しんでいただけます。船内では360度に広がる景色をデッキから望める他、観光案内やショータイムもミシガンならではの楽しみとして充実したクルージングをお過ごしいただけます。



会員 特典 ミシガンクルーズ乗船料
10%引(本人含む5名様迄) ※企画商品などは除く・他割引併用不可

※ビアンカまたは、他の船舶が運航する場合がございます。運航ダイヤなど、詳しくはお問い合わせください。

住所：大津市浜大津5丁目1-1
電話：077-524-5000 FAX：077-524-7896
URL：https://www.biwakokisen.co.jp
営業時間：9:00～17:00(予約センター受付時間) 定休日：無休

東武トップツアーズ 滋賀支店

東武トップツアーズは、全都道府県に事業所を構え、地域の暮らしと豊かな社会に貢献することを目指しています。地域の元気は日本の元気。日本の元気は世界の元気。笑顔の飛び交う社会を作りたい。私たちは日本を元気にするために、地域のあふれる魅力を磨き、繋ぎます。旅行はそのための最大のツールですが、ゴールではありません。私たちが目指すのは、地域のチカラを最大限に引き出し、地域を日本を笑顔でいっぱいにする。旅行だけに留まらない、今の東武トップツアーズを知ってください。



会員 特典 国内パッケージツアー(FEEL) 基本旅行代金の5%割引

住所：草津市若竹町7-10 KB21-2階
電話：050-9001-6304 FAX：077-565-0112
URL：https://www.tobutoptours.co.jp/
営業時間：9:30～17:30 定休日：土・日・祝

SIAメンバーズの募集について

お問合せ TEL:077-526-0931 E-mail:info@s-i-a.or.jp

当協会会員の皆さまの相互交流の推進を目的に会員様のお店や事業の紹介をしている「SIAメンバーズ」では、お店の情報等の掲載にご協力いただける方を募集します。掲載の条件は、「当協会会員であること」「会員特典を実施していただけること」の2点です。詳しくは、当協会事務局までお問合せください。

2025年3月24日から旅券(パスポート)申請が変わります!

変更1 交付までの期間が以前より長くなります

2025年3月24日の申請受理分から、セキュリティを強化した旅券(パスポート)を国立印刷局で作成して配送するため、**日本国内では申請から交付まで2週間程度**、国外(大使館・総領事館)では2週間～1か月程度かかります。

※海外旅行を計画したら旅券(パスポート)の申請もお早めに!

変更2 新規申請もオンラインで手続きできるようになります

これまで滋賀県では、旅券(パスポート)のオンライン申請は更新の場合のみ対応していましたが、2025年3月24日から新規申請もオンラインで手続きできるようになります。



変更3 申請手数料が変わります 例 10年用旅券(パスポート)の場合

旅券法施行令の一部改正に伴い、滋賀県使用料および手数料条例の一部が改正されました。2025年3月24日以降に旅券(パスポート)を申請される場合、滋賀県手数料の額がこれまでの2,000円から以下のとおり変更となります。

- オンライン申請の場合：1,900円
 - 紙による申請(窓口申請)の場合：2,300円
- なお、国手数料については変更ありません。

変更前
16,000円 (国手数料14,000円+滋賀県手数料2,000円)
変更後(2025年3月24日以降)
オンライン申請 15,900円 (国手数料14,000円+滋賀県手数料1,900円)
紙による申請(窓口申請) 16,300円 (国手数料14,000円+滋賀県手数料2,300円)

詳しくは右記Webサイトをご確認ください。

滋賀県パスポートセンターホームページ
https://www.pref.shiga.lg.jp/kensei/gaiyou/soshiki/300696.html
外務省ホームページ
https://www.mofa.go.jp/mofaj/toko/passport/pagew_000001_01253.html



滋賀県



外務省

お問合せ

滋賀県パスポートセンター
電話：077-527-3323

SIA会員募集のご案内

当協会の活動に対する理解と幅広い参加をいただくために会員を募集しております。国際交流や多文化共生地域づくりに関心をお持ちの方のご入会をお待ちしております。

会員特典

- 当協会主催イベント参加費の割引
- SIAメンバーズ各店での利用割引、優待等
- 当協会情報誌のお届け
- 県内イベント案内のメルマガ配信
- 国際情報サロン図書等や国旗の貸出サービスあり

会費

- 学生会員 10年額 1,000円
- 個人会員 10年額 2,000円
- 団体会員 10年額 10,000円

会員情報

【現在の会員数】2025年2月末日現在
●個人会員/215人 ●団体会員/88団体
【新規入会】2024年11月1日～2025年2月28日
●個人/4人

SIAサイトはこちら



ホームページ Facebook

あなたもできる!国際協力

古切手、使用済みのプリペイドカード、書き損じハガキ、外国コイン等が寄付になります。当協会【国際協力BOX】係(大津市におの浜1丁目1-20)までお送りください。当協会事務局窓口にもBOXを設置しています。ご協力よろしくお願ひします!

皆様からお寄せいただいた品を寄付しました

(2022年11月～2025年1月収集分)

- 使用済み切手：14,200g
(寄付送付先:認定NPO法人 シャプラニール=市民による海外協力の会)
- 使用済みプリペイドカード：7,600g
(寄付送付先:認定NPO法人 シャプラニール=市民による海外協力の会)
- 書き損じハガキ：52円21枚・62円14枚・63円80枚
(寄付送付先:公益社団法人日本ユネスコ協会連盟)
- 外国コイン・紙幣：4,600g
(寄付送付先:公益財団法人日本ユニセフ協会)

★ご協力ありがとうございました★